

# KSKP えのき

# NEWSLETTER

地域で当たり前暮らしのために

編集人：社会福祉法人えのき会  
理事長：古川 末子  
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8  
075-605-0303 (TEL)  
075-605-0310 (FAX)  
e-mail:info@enokikai.or.jp  
http://enokikai.or.jp

えのき会が社会福祉法人となつて約20年になりますが、この間、国内外でも様々の出来事がありました。ウクライナ戦争やパレスチナ問題等戦争は終わりが見えず、温暖化の影響と思われる自然災害の脅威がさらに増し世界は混沌としています。その影響を諸に受けるのが女性や子どもたち、障害者等弱い立場の人たちです。戦争で儲ける人がいる一方、原油や食料の高騰から来る物価高は暮らしのあらゆる所に影響し庶民の生活を苦しめています。えのき会は、社会福祉法人として命に寄り添い、見守ること、そして一緒に未来を語ることに。法人の使命として今後も努力して参ります。

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行 定価100円

## 芸術祭に出展する作品ができました!

### 榎の家



白い布に模様をつけるため、ビー玉を中に入れる作業、布に色を付ける作業、よく色が染み込むように手で揉みこむ作業様々な工程を利用者様と一緒に、ワイワイと楽しみながら取り組みました。



染物で作った「てるてる坊主」は、令和6年度「京都とっておきの芸術祭」に出展しています。

上半期の作品は、季節にあわせ、「鯉のぼり」「てるてる坊主」にしてテラスに吊し皆で楽しみました。彩りや感触を身体いっぱい感じました!



鯉のぼり  
風よふけ~



ハロウィン!

染物の他に、季節に合わせたイベントを楽しんでいます。職員も利用者さんと一緒に仮装を楽しみました!





# さくらの家 / さくらの家 西町

さくらの家では 毎度ワイワイ話し合う中で、行事の内容が決まっていま〜す



初夏のお出かけ



コカ・コーラ工場見学へ



クッキング活動 再開しました

クッキング  
大好き！

桃山東小の2年生の見学もあって・・・



トーキングエイド(会話補助装置)を使ってお話しする利用者さんに、興味津々です



ペーパークラフトの魚でリアル魚釣り？

夏祭り



夏！風鈴づくりにチャレンジ



## さくらの家とえのきの家のメンバーの交流会



ハロウィンで仮装しました

ハロウィン



即興の朗読会



# 障害のあるわが子と生きて、思うこと

## 「澄人は、福子」と教えてくれた友人

### 「澄人を看取ってから逝きたい…」久安真由美さん

えのき会の利用者、久安澄人さんは、養護学校卒業後から、お母さん、時にはお父さんの車の送迎で、元気に「えのきの家」に通所されています。

お父さんの仕事の関係で一時期、「えのきの家」を退所され、九州に行かれた事もありますが、1年余りで京都に戻ってこられ、また、えのきの家に通所されています。10年以上利用されています。

障害者のいる家庭では、介護は、ほぼ母親が担っている状況があり、時代が進んだ今も、この状況は変わりません。この30年余りの歳月を、澄人さんと二人三脚で歩いてこられたお母様に、これまでの日々を語ってもらいました。

・☆・☆・☆・☆・☆

「赤ちゃんは、大丈夫ですか」「指は5本ありますか」、澄人さんの妊娠中、心配になり診察の度、ドクターに尋ねていた。

不安を抱きながらの出産、仮死状態で生まれた澄人さんは、母乳は飲まない、ミルクを飲んでもすぐに吐く状態だった。一週間、保育器に入ったあと、最初のNIT病院から三菱京都病院に転院。そこで、ドクターから「肺動脈弁狭窄症」と病名を告げられ、通院の日々が続いた。

この間、澄人さんの父親は、生まれたわが子に会いに病院に来ることもなく、赤ちゃんに障害があると分かること「こんな子は、俺の家系にはいない」と一言。この事で夫や夫の親戚から、毎日入れ替わり電話がかかり、障害のある子を産んだ母親を責められた。ひっきりなしの嫌がらせの電話に恐怖を覚えながらも、3歳上のお兄ちゃんと澄人さん、二人の子どものために離婚だけはしないと、自らに言い聞かせて辛抱した。

しかし、耐え切れなくなり「家を出よう」と決心。



持って出た物は、澄人さんのごろ寝用マット、お茶碗とお盆、発作の薬を保管しておく冷蔵庫、着替えの服が入ったタンスのみで、家を出た。たったこれだけの荷物だったが、心はとても晴れやかだった。

澄人さんは4歳になったが、発作の遅れとてんかんの発作があり、訪問指導の保健師さんより、京都市児童発達支援センター（児相）を紹介され、その後「こぐま園」に通い始める。

通園のために、澄人さんを連れてバスや電車に乗ると、周囲の人から、自分たち親子をじろじろと見られるのが嫌ということもあったが、タクシーを利用する経済的な余裕もなく、通園するために近所の人に借りた自転車、前に澄人さんを抱っこして母子通園した。京都市内は南北に高低差があり、車の移動ではわからないが、往きは上り坂のため必死でペダルを漕いでも70分以上掛かった。帰路は下り坂のため40分余りで家に着いた。

澄人さんのてんかん発作はその後も続いてきたが、その後、武田病院の越智先生に診てもらって発作が改善し、少し安心した。

離婚時に借りたお金の返済と生活費を稼ぐために、しばらく祇園で働いた時期もあった。その方法でしか、返済する金額を稼げなかったため、実の妹さんに澄人さんとお兄ちゃんの世話をしてもらい生計を切り変えようと、ダンブカーの免許を取り、ダンブに乗って家計を支えた。

Q、澄人さんのために、という思いでここまで頑張ってきたお母さんが、もし倒れたら、どうしようと思いませんか？  
A、澄人がいなくなったら楽やなあと思うことが今までもあったが、最後まで、ちゃんと看取してやりたいと思う。そして、私は澄人よりあとで、死んでいきたい…。  
Q、これまでに、楽しい思い出は何ですか。

A、楽しい思い出は、最初の夫（澄人さんのお父さん）と離婚した後、2回目の結婚をして、夫となる人の故郷（韓国の済州島）に、澄人と三人で韓国旅行に行ったことが、一番楽しい思い出です。

二人目の夫は、がんを患い、抗がん剤治療をしていました。治療の間隙を縫って、3人で空路、韓国の済州島に旅行しました。飛行機の旅は無理だと思っていた澄人さんは、ドクターからOKを貰い、夫の故郷で、澄人さんと母親の真由美さんは、夫の親戚から大歓迎を受けました。親子3人、心から寛ぐことができた旅行となりました。これが楽しい思い出です！

澄人さんを要らんとしたのは、最初の夫（澄人さんの実父）だけ。一番目の夫は、澄人さんの介護は勿論のこと、排便のあと始末も、いやな顔一つせずに処理してくれた。一人きりの人生だったはずが、こんな家族ができたことを大変喜び、そして亡くなっていった。現在の三人目の夫も、澄人さんとお兄ちゃん、お母さんの三人を、新しく建てた家に迎えてくれた。そして、いつも澄人さんを家族の輪の中に置いてくれていた事が何より嬉しい！

いろいろな家族の形を示してくれた澄人さんと母親の真由美さん。お母さんの持つ、おらかな性格が、周囲の人を引き寄せ、楽にさせているのかもしれない…。  
そして「澄人は福子」「大切に育てや」と言ってくれまわしてくれた友人もいた。



血の繋がりが何より大切という「血縁家族」だけでなく、人との縁によって結ばれ、新しく形作られる「結縁家族」。今回のインタビューで、さまざまな形の家族があることを著した『偶然の家族（落合恵子）』を思い出しました。

現在のご家族、お母さんの真由美さん、澄人さん、お兄ちゃん、そして夫であるお父さんとだからこそ、結ぶことができた素敵な「結縁家族」です。

\*「福子」の伝承とは、心身にならなかの障害をもって生まれた子どもが、その家に富や幸福をもたらしてくれるということで大切に育てられる言い伝えのことだよね。



『えのき会へご支援をお願いします』

☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。  
 ☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。  
 ☆ 1口 1000円 何口でもOKです 上限はございません(^)/  
**社会福祉法人えのき会 00920-6-106339**  
 同封の振込用紙をご利用ください。

う、利用者の気持ちに寄り添った支援の提  
 供ができますよう職員一同努力して参りま  
 す。今後とも、えのき会へ応援  
 の程よろしくお願い致します。



今年、元日早々の能登半島地震発生に始  
 まり、その後も地球温暖化による影響と思  
 われます大雨や長期の酷暑等の日々が続き  
 ました。また、数年にわたり苦しめられま  
 したコロナウイル  
 スによる副作用で  
 今も苦しむ人がい  
 ます。

一方、国内にお  
 いて人口減少によ  
 る人材不足は福祉  
 関係者には更に厳  
 しい状況となつて  
 おり、えのき会も  
 慢性的な介護者の  
 不足に悩んでいま  
 す。  
 さらに物価の高騰  
 も法人運営面で大  
 きく影響を受け経  
 営的にも厳しい状  
 況にあります。  
 しかし、えのき会  
 として利用される  
 人が地域のなかで  
 今後安心して暮  
 らしていただけますよ

VOICE

重度の医ケアのある人も  
 他の人と区別なく受けた  
 い支援が受けられようにな  
 ってほしいです。私の思う  
 福祉の現場の理想は、た  
 だ一緒にいるだけのインクル  
 シブではなく、生活してい  
 く上で何ら差別のない本当  
 の意味でのインクルーシブ  
 な環境です。一緒に考えて  
 いければと思います。  
 Yさん

子どもがショートステイ  
 をした日の朝食の優雅な事。  
 この上なく幸せを感じます。  
 自分のためにいれたコーヒー  
 を一人で飲む優雅さ。  
 日々の介護疲れの身体と心  
 が生き返ります。  
 ショートの日の楽しみです。  
 hさん

☆フードドライブに  
 ご協力をお願いします。  
 師走に入り何かと物入  
 りですが、是非ご協力  
 をお願いします。

リカーレ理事長研修会  
 理事長山田尋志様  
 11月13日午後2時～4時

高齢者福祉を中心に社会福祉  
 連携推進法人を全国で初めて  
 設立。重要な福祉法人のツ  
 ールとして、地域課題の解決に  
 取り組まれる、そのトップと  
 して山田理事長に職員研修を  
 受けました。  
 法人リカーレの歴史と共に、  
 ガバナンス改革等々について



えのき会理事／  
 京都芸術大学 芸術教養セン  
 ター准教授(専門分野・臨床  
 発達心理学)  
 岸本栄嗣 先生  
 実践報告基礎研修  
 11月30日10時～12時30分  
 実践報告概論及び報告に必要  
 な準備と資料のまとめ方  
 発表などグループワークを中  
 心に、また、実践報告を通じ  
 て「障害者支援にとってなに  
 を大事にすべきか」この仕事  
 の難しさややりがいを考える  
 時間になればと企画しました。

編集後記

京都市では11月6日「京  
 都市ケアラーに対する支援  
 の推進に関する条例」が制  
 定、介護の日の11月11日に  
 施行されました。

ケアラー問題、障害者の  
 家族として障害のある子を  
 介護して、数年、数十年の  
 長い道のりがあります。  
 誰に愚痴をこぼすことも  
 なくわが子を介護をしながら  
 生活をしてきた障害者の  
 家族、特に母親は堂々のケ  
 アラー、「オールドケアラー」  
 です(笑)。

ケアラー条例では、ケア  
 ラー(ケアする人)への支  
 援策と共に、ケアをしてい  
 る相手に日常的、また緊急  
 的に支援を望んでいます。  
 障害のある子を長年介護し  
 てきたケアラーの多く(家  
 族)は言います。障害のあ  
 る人(子等)が幸せでなけ  
 れば自らの幸せはないと同  
 じ。ケアラー条例が施行  
 されました。さまざま  
 ケアラ、ケアされる人がい  
 ることを知る。皆が生  
 きやすい社会になればと思  
 います。

□ 発行人 関西障害者定期刊行物協会  
 大阪市天王寺区真田山町2-2  
 東興ビル4F



□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子  
 (法人本部)  
 〒612-8002  
 京都市伏見区桃山町山ノ下4-4-8  
 電話 代表 075-605-0303(代表)

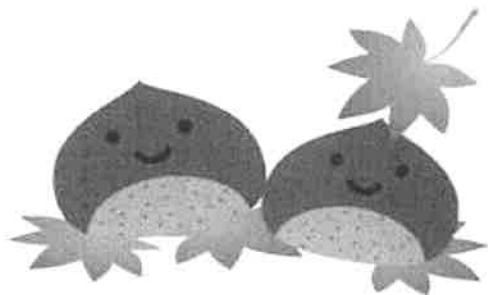


1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行 定価100円

第7回

# フードドライブにご協力ください

第7回「フードドライブご協力」のお願いとなりました。  
多くの皆様のご協力で、心より感謝いたします。  
4年程続いたコロナ禍の規制もなくなりましたが、今、京都の中心街では、訪日外国人観光客が、ドッと押し寄せ、ざわついた京都になっています…。  
反して、子ども食堂の担当者の方は、「以前に比べ、食品の提供も少なく厳しい状況です」と語ってくれました。生きていくために不足があれば、食料を準備、提供するの、国の責任です。物価高騰の折で、もうしわけありません、どうか、皆様のご協力、どうかよろしく願い致します。



## 締め切り

〇日時：2024年12月20日

えのき会にお持ちいただくか、  
送迎時に職員にお渡しください

担当：西山、森島

社会福祉法人えのき会

電話 075-605-0303

FAX 075-605-0310